

平成 26 年 11 月 11 日

話題提供者 資料

本年度の豪雨等における災害ボランティア活動に関する話題提供

<目 次>

1. 京都府福知山市におけるボランティア活動について..... 1
松田 規（福知山市社会福祉協議会 会長）
2. 兵庫県丹波市におけるボランティア活動について..... 10
松浪 豊（丹波市社会福祉協議会 事務局次長）
3. 広島県広島市におけるボランティア活動について..... 19
坂本 泉（広島市社会福祉協議会 広島市ボランティア情報センター 所長）

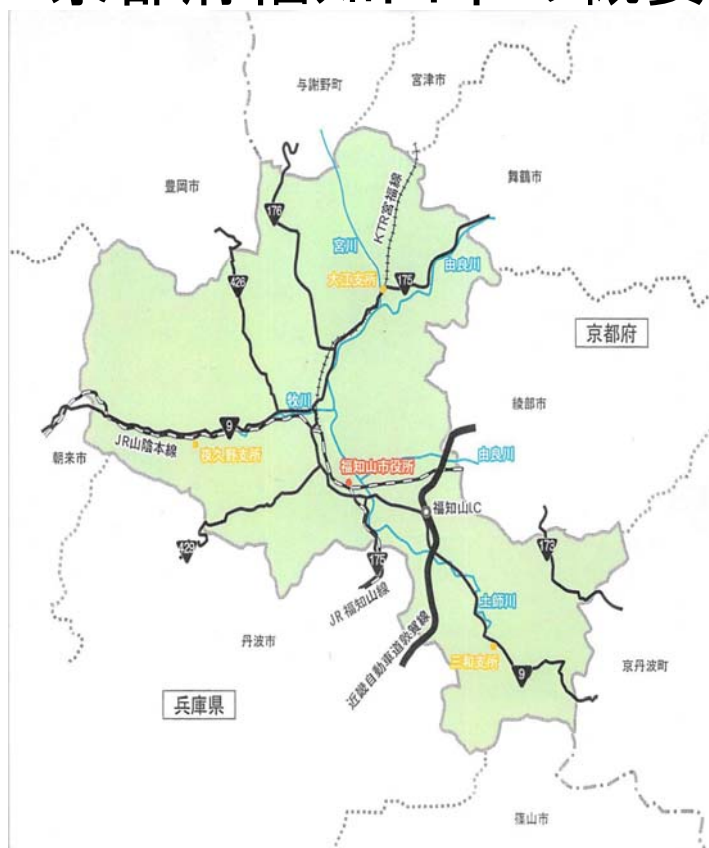
平成26年8月豪雨災害 災害ボランティア活動報告

福知山市災害ボランティアセンター



1

京都府福知山市の概要



福知山市の災害特性

京都府の北西部、由良川の中流域に位置する盆地に開けた地域で、北は与謝野町・宮津市・舞鶴市に、東は綾部市に、南は京丹波町に接し、西は兵庫県に接している。

福知山盆地を貫流する由良川には、土師川、牧川、和久川等の支流が合流し、古来由良川の氾濫に悩まされてきた。江戸時代の記録によれば、ほぼ2～3ごとに洪水に見舞われてきた。

昭和28年	台風13号	水位 8.1m
昭和34年	伊勢湾台風	水位 7.1m
昭和47年	台風20号	水位 6.1m
平成16年	台風23号	水位 7.55m
平成25年	台風18号	水位 8.3m

2

平成26年8月豪雨災害の概要

【豪雨の記録】

総雨量 357.5mm
時間最大雨量 62.0mm(17日午前3時30分～福知山雨量観測所)
最高水位 由良川福知山水位 6.48m(17日午前5時頃)

【気象情報の推移】

8月16日(土) 13:20 大雨警報発表
16:11 土砂災害警戒情報発表(三和地域)
19:47 土砂災害警戒情報発表(旧福知山市域)
20:38 洪水警報発表
20:49 土砂災害警戒情報発表(大江地域)
8月17日(日) 2:30 記録的短時間大雨情報(福知山市中部付近で約90mm)
3:19 土砂災害警戒情報発表(夜久野地域)
8:25 土砂災害警戒情報解除(夜久野地域)
21:54 土砂災害警戒情報解除(三和地域、大江地域)
8月18日(月) 5:05 土砂災害警戒情報解除(旧福知山市域)
6:17 大雨警報解除

3

福知山市被害状況(福知山市役所調べ)

【被災状況】(平成26年10月14日現在)

人的被害				家屋等被害				床上・床下別	
死者	行方不明	負傷者		全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	床上	床下
		重症	軽症						
1人	0人	0人	1人	13棟	6棟	198棟	3,935棟	2,430棟	2,430棟

【避難状況】

1次避難所			2次避難所		
避難所	世帯	人数	避難所	世帯	人数
57箇所	350世帯	802人	1箇所	5世帯	9人

【その他】

土砂崩れ:96件、道路被災:249箇所、175路線、河川被害:132箇所、45河川
農地冠水:680箇所、林地:171件、林道:50件、上下水道施設:25件
事業所:1,032事業所、福祉施設:19施設

4

平成26年8月豪雨災害・災害VCの主な動き

8月17日(日)

- 7:00 職員安否確認(8人被災)
- 8:00 市災害対策本部との連絡・調整開始
- 11:00 市内被災状況実地調査
- 15:30 市内被災状況(市から700棟浸水被害の情報)
災害ボランティアセンター災害時体制への移行検討、資器材の準備開始
災害ボランティア募集(個人は市内、団体は全国)
シルバー人材センターと調整開始、被災自治会にニーズ調査
- 19:00 京都府災害VC先遣隊と協議、災害時体制への移行を決定
京都府社協及び市町村社協連合会からの職員派遣を要請

8月18日(月)

- 8:30 総合福祉会館で災害VCの運営開始、ニーズ把握のための広報開始
- 9:00 三段池現地センター開設準備
- 10:00 京都府災害VCより資器材到着、京都府社協より職員の派遣受入開始

8月19日(火)

- 8:30 京都府市町村社協連合会より社協職員の派遣受入(~31日)
京都府現地事務所設置、災害派遣等従事車両証明発行
三段池現地センターの運営開始
- 16:00 市から被災件数が2,400件を超える見込みとの連絡
ボランティアを個人・団体とも全国に拡大、近畿ブロック社協からの派遣を要請

5

- 8月20日(水) ボランティアによる活動地域でのボランティアニーズのチラシ配布
民生児童委員によるボランティアニーズのチラシ配布
- 8月21日(木) 近畿ブロック社協より職員派遣の受入開始(~26日)
被災者健康訪問時にボランティアニーズのチラシ配布
民生児童委員を中心に案内ボランティア
- 8月22日(金) 大雨雷注意報発表 11:30活動中止
災害ボランティアを名乗る窃盗事件発生
- 8月23日(土) 防犯チラシ配布
災害ボランティア証明書発行
京都府災害VCによる現地ニーズ調査
- 8月24日(日) 大雨警報発表。記録的短時間大雨情報(福知山南部に約90mm)
13:30活動中止
- 8月26日(火) 大雨警報により全日活動中止。
近畿ブロック社協職員による市内被災箇所の現地ニーズ調査
- 8月28日(木) 個人ボランティアは市内在住に限定募集
- 8月31日(日) 災害時体制を解除
京都府災害VCによる資器材点検
市災害VCの資器材一部を府災害VCに寄託
- 9月 1日(月) 平常時体制移行。生活相談センターの開設(~9月30日)。
京都府社協の支援により生活福祉資金貸付相談
ワンストップサービス窓口を市役所に開設。(~19日)

6

【周回遅れの先頭ランナー】

～福知山市災害ボランティアセンターの歩み～

平成16年10月の台風23号で災害ボランティアセンターを開設



初めての経験で、センター運営、資機材の確保、関係機関との役割分担・連携のすべてに課題



平成18年9月：災害ボランティアネットワーク連絡会の組織化・・・常設センター

平成20年3月：災害ボランティアマニュアルの策定



会員数 5,983名(団体・個人)

毎年災害ボランティアセンター立ち上げ訓練など

東日本大震災(宮城県石巻市)、紀伊半島豪雨災害(和歌山県古座川市)へ派遣

他市からの視察受け入れ



平成25年台風18号発生(全国で初の「大雨特別警報」発表)

災害ボランティアセンター災害時体制に移行 災害ボランティア5579人



マニュアルが進化していなかった → 訓練がワンパターン

登録会員がセンタースタッフで機能していなかった → 市職員を動員(禁じ手)

改めて災害ボランティアセンターのあり方を検討している最中に8月豪雨に襲われた。 7

見直しの課題意識

【基本的事項】

①BCPの検討

重大な災害時に社協事業をいかに継続するか、平常時からの危機管理意識が希薄。

②マニュアルの定期的な見直し

東日本大震災で石巻市に職員を派遣したが、個人的経験にとどまり、多様な災害への対応を含めて組織的に検討する場がなかった。

③市との協定の検討

一定のルールを共有しておくことが必要。特に大規模災害時には総合福祉会館では対応できないことから適地を予め定めておく必要がある。

④シルバー人材センターとの連携(設営・資材搬送など)

重大な災害時に職員が直ちに参集できなくても、最小限のスタッフでも災害ボランティアセンターを機能させる必要がある。

⑤訓練から養成へ

大規模災害時には市職員の応援が望めないため、センター運営スタッフボランティアを平常時から養成しておく必要がある。

⑥災害ボランティアセンター運営委員会の機能化

予算決算だけの形式的な運営委員会から実質的に責任を負う運営委員会へ。

⑦京都府災害ボランティアセンターとの連携

周回遅れを取り戻す必要がある。

危惧が現実になった～不安の中でのスタート～

【被災当日】

- ① 職員の安否確認から始った。⇒連絡のつかない職員が続出。
- ② 交通手段・交通ルートがストップした。⇒要員が集まらない。
- ③ 福祉サービス利用者・災害弱者の安否確認が進まない。⇒BCPの必要性再確認
- ④ 被災状況が断片的にしか把握できない。⇒災害時体制の規模の想定が困難。

【災害ボランティアセンターの設営】

- ① シルバー人材センター事務所が床上浸水⇒事務所機能がストップ。(電話、職員、車など) 理事長との人間関係で要員を派遣してもらった。
- ② 資材倉庫が孤立⇒一輪車の不足
- ③ 三段池現地センター駐車場に連日健康診断車両⇒毎日テントの位置変更。

【災害ボランティアセンターの運営】

- ① マニュアルの不備にもかかわらず使わざるを得なかった。⇒随時改良。
- ② 交通渋滞で送迎バスが帰って来ない。⇒市町村社協の車輛提供
- ③ センター要員が不足、経験も不足⇒府社協、市町村社協連合会、近畿ブロック社協職員の支援
- ④ 災害ボランティアニーズ把握の情報提供⇒行政の前例主義的反応
⇒府災ボラセンターのアドバイス「できることは全部やってみよう。」
- ⑤ 災害対策本部とのホットライン確保
⇒方針等は早期に確認できたが、詳細は後回し(お互いに人員不足)

9

助けられて

【京都府災害ボランティアセンター】

- ① 上席副代表が先頭に立って来た。
先遣隊として府の方針決定に当たると同時に現地センターで行動で見本。
扇子型組織のイメージ共有(そのためのニーズ把握の徹底、平常時体制移行時の視点等)
- ② 構成団体がスタッフとして背中を支えてくれた。

【京都府社会福祉協議会】

- ① 連日のスタッフ派遣(延べ45人)
- ② 資機材の迅速な提供
- ③ 府内市町村社協連、近畿ブロック幹事社協の職員派遣(延べ260人)
- ④ 府内市町村社協連の自動車提供

【自治会長】

・地縁関係の強い地域だけに、ニーズ把握に大きな力となったし、協力が得やすかった。

【民生児童委員】

・運転・道案内ボランティアとして組織的支援が得られた。

【その他】

・京都府、日赤など多くの機関の側面支援がボランティアをカブけた。

10

課題(その1)

- ① 即対応の原則
ただ、規模をどうするのか、災害対策本部との緊密な関係をルール化しなければ。
- ② 介護部門からもスタッフ配置
BCPがない中では一時的に穴があく時もあり、不安定。運営スタッフボランティア養成が必要。
- ③ 現地センター敷地の利用条件が毎日変わった。
与えられた条件の中で最善を。特に災害ボランティアが気持ちよく現地に行けるように。
- ④ 電話回線を2本しか引いていなかった。
ファックスは専用回線にし、代表電話で複数回線を引くとともにインターネット環境(メール)を。
- ⑤ 交通渋滞時は大型バスはすぐには戻れない。
今回のような広域災害では小回りのきく車が便利。
- ⑥ 緊急対応の資機材はセットしておくこと。
一輪車の資機材倉庫への交通ができず、配置が遅れた。
- ⑦ 需給調整がパンク寸前(電話回線不足)
災害ボランティアセンターが現地調査し俯瞰マップができる体制が望ましい。今回は一部だけ実施。
- ⑧ ニーズの取りこぼしをしない。
自治会、民生委員、行政、マスコミという従来広報と同時に、被災地への個別チラシ(民生委員、保健師、ボランティア)、防災行政無線、防災メール、現地調査による聞き取りなど。今後は広報車も。
- ⑨ ホームページの活用
どうしても情報は現地センター発となるため、統括本部事務局での行動にタイムラグが生じた。Wi-Fi環境でのタブレット端末の活用を準備中。

11

課題(その2)

- ① 住宅地図が大活躍したが、個別のニーズを特定し、地図を継ぎ合わせる作業が大変。
タブレット端末にゼンリンデータを入れて現地調査をそのまま地図に反映してプリントしたい。
- ② 無線機の整備
広域に呼びかけることのできる無線機が必要。市社協の無線機は届かないため府災害ボランティアセンターから借用。今後の整備計画で検討する。
- ③ 災害ボランティアセンター専用のビブスがなかった。
スタッフ用、ボランティア用(せめてリーダーだけでも)順次整備したいが・・・
- ④ まさか窃盗事件が
急いで災害ボランティア従事証明を作った。名前もガムテープでなく、サテンシールも準備したいが・・・
- ⑤ 資機材の整備範囲はどこまで?
府災害ボランティアセンターから大量の資材を借用したほか、各社協からも提供があり、中には東日本からの資材も。1社協で全ての資機材を揃えるのは無理。各社協所有資機材のデータを集約し広域活用のルールの検討も。
- ⑥ 参謀役がほしい。
目の前の状況への対応に追われる時ほど、冷静に全体を把握してくれる補佐役が必要。子どものサッカーのように、全員がボールを追いかける状況が生じないために・・・災害VCの専門家でなくていいから。
- ⑦ ニーズの減少が終息を意味するとは限らない。
平常時体制移行後に生活相談センターを開設してから災害ニーズが14件。生活福祉資金相談が104件。社協の日常力が問われるのは、これから。

12

課題から行動へ

- 災害時体制への移行決定

社協BCP作成と並行して社協判断による災害時体制への移行を決定する必要がある、市との協定書に明記したい。(今回は実質的に行政の事後承諾だった。)

- 行政との情報共有

たまたま2年連続の災害となったが、明らかに内容が異なっているにも関わらず災害ボランティアセンターについては、昨年の経験範囲での理解にとどまることが多かった。なんとかホットラインはつながったものの個人レベルでは意味がなく、どのようにルール化するか。

- ニーズを漏らさないために

災害ボランティアに関する情報を得られない人(市外の親戚に緊急避難の事例)もあった。広報に頼るだけでは取りこぼしが生じる。災害VCがローリング調査できる体制は人的に困難ではあるが実現させたい。

- 生活再建の段階で希望が失望に変わる人がいる。

社協の本来の任務は、災害VCの平常時体制移行からより強く求められる。

- 京都府災害ボランティアセンター先遣隊にならって

発災直後、社協も市行政も被災状況の全貌がつかめず、現地ボランティアセンターの運営に関する様々な選択肢に悩んでいる時、先遣隊で来た上席副代表が「僕らは最後まで支えますよ。」と言ってくれたことに勇気づけられた。これからの災害で同じことが言えるかが問われているし、試されるだろう。

1. 平成 26 年 8 月豪雨災害 京都府災害 V C の動き（時系列メモ）

8 月 17 日（日）

08:30 府下の被害について、府災害対策本部と情報交換

- ・ 福知山で浸水被害あり。市街地に至っている

09:20 代表、上席副代表で緊急電話協議

- ・ 災害時体制への移行
- ・ 夕刻、水が引き次第、福知山に先遣隊を出す。

10:00 災害時体制に移行

16:50 先遣隊京都市を出発

- ・ 団長：上席副代表
- 団員：京都府介護地域福祉課副課長
KDVN 会員（京都府災害 V C、L O 研修修了）
京都府災害 V C 事務局主事（府社協）

19:00 先遣隊福知山着

KDVN 理事（福知山在住、地元自治会長でもある）合流

- ・ 福知山市社協にて会長、部長と協議

この時点での福知山市災害対策本部の被害集計は

○	床上浸水	50	(2430)
○	床下浸水	49	(2430)
○	全壊家屋	2	(13)
○	半壊家屋	1	(198)
○	一部損壊	10	(3935)
※ () は最終被害数			

であったが、先遣隊は市内を俯瞰した結果、最低でも 1000 棟以上が床上浸水していると判断（実際は 2430）

- ・ 先遣隊の助言として、現状の福知山市災害 V C の体制では、翌 18 日に現地センターで受け入れを開始すれば、センター機能がパンクする危険が高い。まず現地 V C は、被害の俯瞰とニーズ把握、そしてそれに必要な人員体制を整備することが急務。
- ・ 府 V C として、府下にある資機材を福知山にまわすこと、現地 V C をサポートする要員を出すことを福知山市災害 V C（社協会長）に申し出る。
- ・ J C 京都ブロック協議会会長に要員の応援派遣を依頼

8 月 18 日（月）

00:20 先遣隊京都着

上席副代表、山田知事にメールにて報告

10:00 資機材福知山着、京都府、京都府社協職員を応援

8月19日（火）

床上浸水 1000 棟以上と福知山市災害対策本部が報告
京都府職員有志、京都府災害VCによるボランティアバスを派遣
日本JC京都府ブロック協議会から福知山市災害VCへ支援要員を毎日派遣開始

8月20日（水）

京都府職員有志、京都府災害VCによるボランティアバスを派遣

8月21日（木）

公募によるボランティアバスの派遣開始

8月22日（金）

現地は午前中で作業中止

8月23日（土）

上席副代表を福知山に派遣、近畿ブロック社協などと現地調査を行い、全市的な俯瞰、ボランティアの戦略の立案が可能になる。

9月1日（月）京都府災害VC 非常時体制を解除

2 平成26年8月豪雨災害、振り返り

- 兵庫県丹波市は京都府福知山市の隣、だがなぜボランティアは福知山に来てくれたか（府VC関係）
 - ・マスコミ広報戦略を行ったこと
 - ・ツイッター等でボランティアバス派遣情報を小まめに流したこと。
 - ・ボラバスの体制が迅速であったこと
- バスの調達
 - ・毎年出しているのに、旅行会社の担当も段取りを分かってくれていた。
 - ・全国の長距離バス事故を受けた規制について（運行時間制限）きちんとVC側が事前に理解して戦略を立てる必要があった（反省点）
- 応援スタッフによる支援体制
 - ・10年ぶりにJCの全力体制
 - ・西本願寺などの組織ボランティアをもっと深く巻き込む体制を作る必要がある
 - ・大学ボラセンとの更なる連携（今回はバスの募集のみ、やはりゆくゆくはスタッフなど）
- 府災害VCの体制
 - ・上席副代表が「指揮官先頭」の姿勢を見せる
 - ・スタッフ（特に非社協）の体制作りが急務
組織加盟の長所を活かしきれていない
 - ・事務局スタッフに危機時における報告や確認という概念が希薄

丹波市豪雨災害に関する ボランティアセンターについて

丹波市復興支援ボランティアセンター

平成26年8月1日
(13:00～17:00)
国土地理院撮影

丹波市の概況

・10年前の平成16年11月に6町合併し、現在の人口は約6万8,000人で高齢化率30.2%。丹波市内には、25小学校区ごとに「自治協議会」が組織され、「コミュニティセンター」が地域活動の拠点となっている。



被害状況

8月16日夜からの豪雨により、各地で土砂崩れなどが発生し、1人が死亡、4人が重軽傷を負った。住家被害も全壊17棟、大規模半壊8棟、半壊39棟、一部損壊1棟、床上浸水140棟、床下浸水723棟に上るなど、谷沿いの集落を中心に大きな被害が発生した。(9月22日現在)

人的被害(人)		住家被害(棟)					
死亡	負傷	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊		
					一部損壊	床上浸水	床下浸水
1	4	17	8	39	1	140	723

3

丹波市豪雨の被災地の状況<市島町>





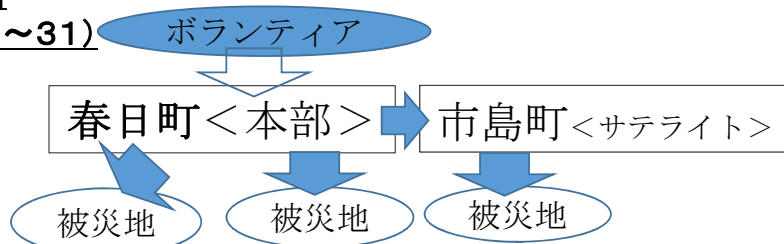
丹波市災害ボランティアセンターの概要

- ・丹波市社協では、災害発生の3日後の8月19日から約1カ月間、「災害ボランティアセンター」を運営し、被災者支援を実施。
- ・9月16日までに延べ1万3860人がセンターに登録してボランティア活動を展開した。
- ・現在は「復興支援ボランティアセンター」に体制を移行。コミュニティセンター等を拠点に「サテライト」を設置し、自治協議会と関係団体の連携により、見守りや住民の交流活動など、地域密着型の活動を展開。

災害ボランティアセンターの変遷

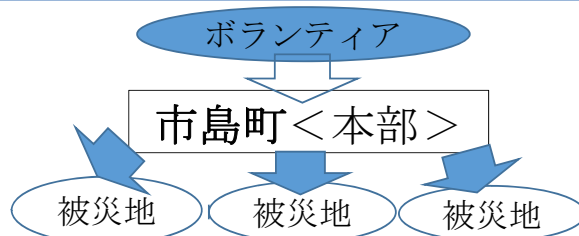
第1段階

(8/19~31)



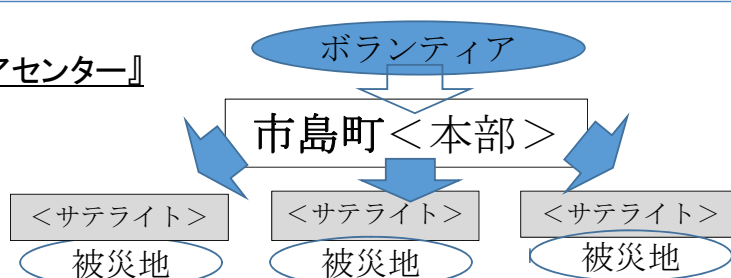
第2段階

(9/1~16)



第3段階(9/17~)

『復興支援ボランティアセンター』



7

災害ボランティアセンターの運営の様子



8

丹波市災害ボランティアセンター 取り組みポイント

1. マニュアルの作成

従前よりマニュアルを整備し、開設場所や運営組織が円滑に決まり、素早く体制を立ち上げることができた。

2. 行政との協定

災害ボランティアセンターの運営に関する協定を行政と社協間で交わしており、資機材・財源の確保、専任の行政担当職員の配置ができた。

3. 地域のネットワーク

市の災害対策本部を中心に、社協と地元NPOなどとの協働・共有の場を設け、各小学校区単位の「自治協議会」や自治会とも連携した対応ができた。

9

県内社協のネットワークによる支援

ヒ ト

全市町社協から毎日10人以上の運営支援スタッフが派遣され、延べ400人以上がセンター運営

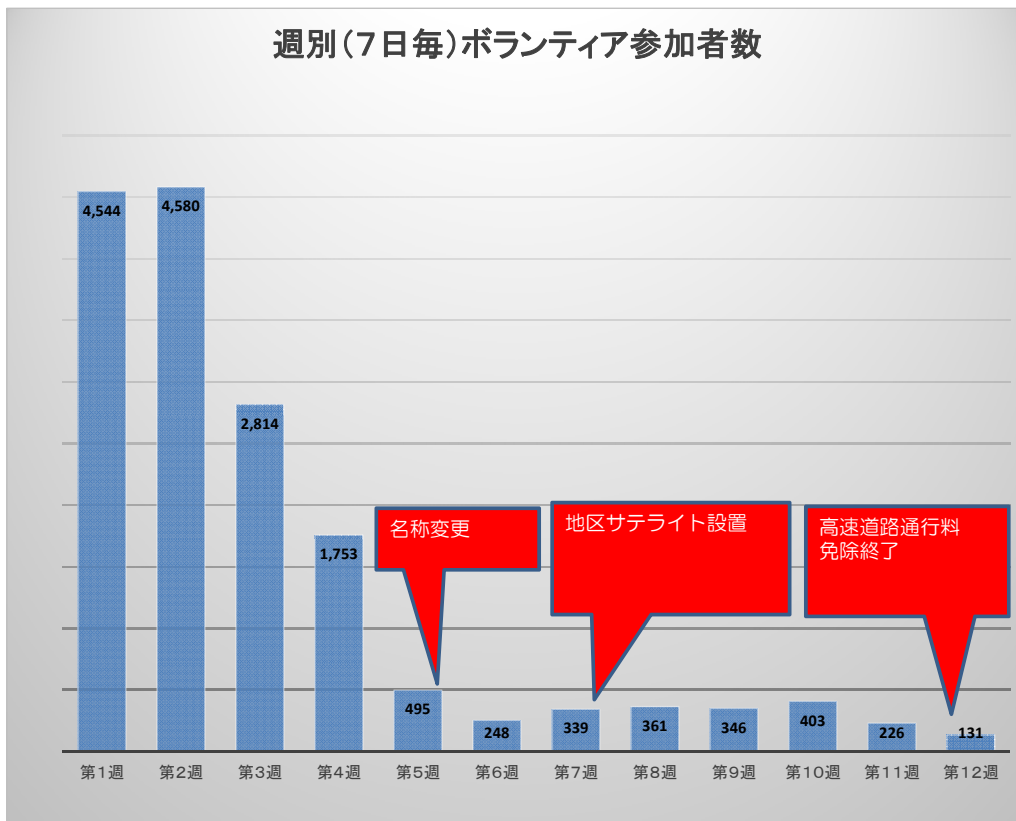
モノ

ボランティアセンターで使用する資機材の迅速な供給が行われた。(8/18)

ボランティアバス・ワゴンの運行など

団体ボランティア数9,405人のうち、兵庫県内の社協がボランティアバス・ワゴンを出して現地入りしたボランティアは1,941人で全体の20.6%にのぼった。

10



11

丹波市豪雨をめぐる新聞報道



泥流一気 盆休み暗転



12

被災者要望聞き取り

丹波豪雨

ボランティア復旧の進捗把握図る

丹波市復興ボランティアセンター（ボラセン）は、豪雨で被災の大きかった市島町ボランティアによる復旧作業の進捗把握を図るため、市島町ボランティアセンターを訪れ、被災者から復旧作業の進捗や要望を聞き取りました。ボラセンの代表理事は「ボランティアの進捗把握は、被災者の要望を聞き取り、適切な支援を行うことが重要です」と話しています。

ボラセンは、被災者から復旧作業の進捗把握を図るため、市島町ボランティアセンターを訪れ、被災者から復旧作業の進捗や要望を聞き取りました。ボラセンの代表理事は「ボランティアの進捗把握は、被災者の要望を聞き取り、適切な支援を行うことが重要です」と話しています。



被災者から復旧作業の進捗把握を図るボランティア（市島町）と市島町ボランティアセンターの代表理事（市島町）。



市島町ボランティアセンターで復旧作業の進捗把握を図るボランティア（市島町）と市島町ボランティアセンターの代表理事（市島町）。

暮らしの復興支援へ移行 「今後も協力してほしい」

丹波市ボランティアセンター

丹波市ボランティアセンターは、8月10日から市島町ボランティアセンターへ移転し、被災者の暮らしの復興支援に力を入れています。市島町ボランティアセンターの代表理事は「今後も被災者の要望を聞き取り、適切な支援を行うことが重要です」と話しています。

丹波豪雨

いまだ続く家屋泥出し

ボランティア空き家で作業

8月中旬の豪雨災害最大被害を受けた丹波市市島町で8日、手つかずだった空き家の土砂の撤去作業が行われた。発生から間もな3カ月、ボランティアによる土砂の泥出しはも



空き家にうず高く積み重なった土砂と格闘するボランティア。8日午前、丹波市市島町徳尾。

市復興支援ボランティアセンターと、現在、農具の泥、軒屋根、やり壊した部15人ほどのボランティアセンターに、ボランティアが5人ほど参加して作業している。ボランティアの代表理事は「今後も被災者の要望を聞き取り、適切な支援を行うことが重要です」と話しています。

ボランティアセンターに支援を必要としている被災者。泥出しのほか、丹波市復興支援センターの掃除や家の移転ボランティアセンターの活動。床下の消毒などの作業も進められている。21次があり、今後も50回（森 信弘）

社協が災害支援に取り組む意義

- 平時の取り組みで築いてきた関係性を生かし、被災者とボランティア・NPOなどの支援者との橋渡し。地域の関係機関との日頃からの協働。
- 要援護者の把握、見守りを普段の活動で進め“助けて”と声を上げやすい関係づくり。
- 被災地の復旧から復興までを継続的に行うことができる。
- 全国ネットワークで広域的な被災地支援を行うことができる。

15

運営上の課題

- ニーズ把握の難しさ
ニーズ把握の中心的役割を果たされた自治会長も被災されていた。
また、被災者の方々の遠慮を取り払い、真のニーズを把握することに時間を要した。
- 情報発信の難しさ
被災地が広範囲であったため、ボランティアに関する情報を的確かつ迅速に提供することができなかった。

16

豪華雨宮からまもなく3ヶ月
長く遠い道のりも
みんながいたら大丈夫
一緒に祈りましょう
復興を願うすべての人のつながりの
感じてください

キッズコーナー！
お楽しみメニューをご用意！
おやつも準備中！

食べ物の300品無料キッズコーナー
合計580品無料キッズコーナー
さしあげます！！
（アールホール主催のイベント）

送迎あります！
前山コミュニティセンターまで送迎します！

魚めし、今一、豚のおでん、ぜんざいなど
おいしいものいっぱい！！

山名酒造のふるま酒コーナー
午前10時～午後1時
（5/24/25/26）

家族自由の英語！
英語のマジックショー！

平成26年11月16日（日）
午前10時～午後4時頃まで
前山コミュニティセンター周辺にて
※雨天決行（注意報発令の場合は中止）

主催/前山復興支援実行委員会
後援/前山地区自治会連合会
丹波赤十字社 丹波市協議会
丹波赤十字社 丹波市協議会

連絡先
前山コミュニティセンター
0795-85-1092
☆詳細はくらめ！！

人海戦術、

作戦は以上です。

丹波市復興支援ボランティア募集！

8月16日から降り続いた大雨によって、私たちのまちは大きな被害を受けました。被災地域では引き続き復興支援ボランティアの支援を必要としています。丹波市の復旧・復興にぜひあなたの力を貸してください。

【連絡先】
丹波市復興支援ボランティアセンター
(Tel) 0795-85-2750 (Email) ichijimavc@gmail.com

詳しくは、丹波市ホームページ 丹波市復興特設サイトをご覧ください。

特設サイト QRコード



平成26年豪雨災害への対応について(被災状況・対応実績数等)

1 被災状況(H26.11.5 現在)

- (1) 人的被害 118人(安佐南:99人、安佐北:19人)
死者 74人(安佐南:68人、安佐北:6人)
負傷者 44人(重症8人・軽傷36人)
(安佐南:31人・重症5人・軽傷26人、安佐北:13人・重症3人・軽傷10人)
- (2) 物的被害
全壊 174件(西:1件、安佐南:135件、安佐北:38件)
半壊 187件(安佐南:107件、安佐北:80件)
一部破損 142件(中:1件、西:7件、安佐南:81件、安佐北:51件、安芸:1件、佐伯:1件)
床上浸水 1,166件(西:2件、安佐南:846件、安佐北:318件)
床下浸水 3,080件(西:18件、安佐南:2,278件、安佐北:178件)
山がけ崩れ 380カ所(西:12件、安佐南:119件、安佐北:246件、佐伯:3件)

2 ニーズ件数(H26.10.31 現在)

総受付ニーズ	1,733件(安佐南区 1,054件	安佐北区 679件)
完了	1,702件(安佐南区 1,040件	安佐北区 662件)
継続	12件(安佐南区 3件	安佐北区 9件)
未着手	19件(安佐南区 11件	安佐北区 8件)

3 ボランティア活動者数(H26.10.31 現在)

総合計 42,966人(安佐南区 29,154人 安佐北区13,812人)

4 災害ボランティアセンター運営支援者派遣数(H26.10.31 現在)

総合計 延べ1,674人

(1) 市区社協職員派遣

延べ588人

- ① 広島市社協 219人
- ② 広島市域各区社協 369人

(2) 県内外社協職員派遣

延べ852人

- ① 県内 482人(県社協192人、市町社協290人)
- ② 中国ブロック県・政令指定都市社協 278人
(岡山57人、鳥取104人、島根44人、山口54人、岡山市19人)
- ③ 全国ブロック社協 92人(四国40人、九州52人)

(3) 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議派遣

延べ234人

5 見舞金・支援金(H26.10.31 現在)

合計 14,908,233円

見舞金 2,988,800円

支援金 11,919,433円

6 義援金(H26.10.31 現在)

広島県共同募金会扱い分 237,621,820円

(内、広島市共同募金会扱い 4,969,936円)

平成26年8月20日豪雨災害

広島市災害ボランティア本部・安佐南区、安佐北区災害ボランティアセンター
 (現広島市復興連携本部・安佐南区、安佐北区復興連携センター)での対応経過

H26.10.31 現在

日にち	曜日	活動者数		備考
		安佐南区	安佐北区	
8月19日	火	—	—	・夜間から翌日未明にかけて豪雨
8月20日	水	—	—	・発災 ・職員の安否、被害状況確認を各所属・区社協に指示(9:00) ・災害状況を確認し、市社協、NPOセンター、市で対応等を協議(15:00) ・広島市災害ボランティア本部設置(18:00) ・支援P派遣(16:00) ・広島県は広島市の「災害救助法」適用を決定
8月21日	木	—	—	・安佐南区に県社協職員、安佐北区社協に区社協職員を派遣 ・全国社会福祉協議会職員来広現地入り ・第2回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 ・市社協ホームページ更新 ・市災害ボランティア本部スタッフ会議開催(毎日19時から開催を確認) ・古屋防災担当大臣が現地視察 ・湯崎県知事と松井市長が現地視察 ・被災者生活再建支援法の適用を決定 ※断水1,230世帯、停電約970戸、避難所29か所
8月22日	金	—	—	・安佐南区災害ボランティアセンター設置 ・安佐北区災害ボランティアセンター設置 ・県内市町社協職員派遣開始 ・広島県が義援金の受付開始 ・県営、市営住宅の無償貸出を決定 ・政府が非常災害対策本部を設置
8月23日	土	849	506	・ボランティア活動開始 安佐南区のサテライト(庄原産直市跡) 安佐北区のサテライト(大林小学校、三入小学校) ・広島市災害ボランティア本部フェイスブック立ち上げ ・広島県が災害派遣精神医療チーム(DPAT)を派遣
8月24日	日	中止	868	・安佐南区に受付用電話を増設 ・緊急区社協事務局長会議開催(今後の市区社協職員応援派遣体制について協議) ・安佐南区の活動が雨天のため中止
8月25日	月	745	380	・安佐南区の受付場所を変更 (庄原産直市⇒安佐南区総合福祉センター) ・広島市が各区災害ボランティアセンターへ連絡調整係として職員1名ずつの配置を開始
8月26日	火	1,001	435	・団体ボランティア受付用紙を公開 ・本部スタッフが各区災害ボランティアセンターの夜間ミーティングへの出席を定例化 ・中国ブロック社協職員派遣開始 ・政府の非常災害対策本部が移転(県庁⇒市役所)
8月27日	水	1,209	691	・ワッペン(ボランティア・スタッフ用の目印)の使用を開始
8月28日	木	868	553	・社協職員スタッフ増員の呼びかけ ・連絡調整会議に呼びかけ、土日に向けた、運営スタッフ増員の依頼 ・広島市災害ボランティア本部公式ホームページ立ち上げ
8月29日	金	1,070	532	・連絡調整会議各団体の回答を基に土日の派遣を依頼

8月30日	土	2,495	770	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の社協中核職員の派遣開始 ・広島市社協ホームページから公式HPへ移転 ・内閣府、厚生労働省の職員が区災害ボランティアセンター及びサテライトを視察 ・広島市が安佐南区災害ボランティアセンターへ応援職員として3名派遣を開始(土日祝のみ)
8月31日	日	1,782	1,047	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区の一部(長東西、山本)及び安佐北区の避難指示解除 ・可部線(緑井駅～可部駅)の試運転 ・西村副大臣(厚生労働省)が安佐南区サテライト視察 ・15時の記者発表を定例化⇒必要に応じて実施に変更
9月1日	月	948	390	<ul style="list-style-type: none"> ・可部線復旧。 ・安佐北区が、可部東サテライト(台集会所)、ボランティア休憩所(新建集会所)を設置 ・災害ボランティア本部移転(17:30) (市社会福祉センター⇒安佐南区総合福祉センター) ・日本赤十字社が義援金の受付開始 ・ボランティア活動支援金の受付開始
9月2日	火	911	352	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区災害VCが広島経済大学「被災地域支援ボランティア受付窓口」と打ち合わせ ・避難指示(梅林、八木、緑井)解除 ・第1回NPO・NGO支援連絡会議(26団体参加)
9月3日	水	920	331	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議の開催 ・市長が県外ボランティア受入を表明
9月4日	木	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・雨天のため、活動中止 ・県外ボランティア団体の受付開始(記者発表) ・第2回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)⇒週1回 ・広島市が民間住宅の入居受付を開始
9月5日	金	694	372	<ul style="list-style-type: none"> ・県内団体受付を再開(安佐南区) ・安佐南区のマッチング機能を八木サテライトへ移管 ・お掃除ボランティアの受付開始(安佐北区) ・避難者一部移転(梅林小⇒広島共立病院旧病棟) ・政府、広島土砂災害を「激甚災害」に指定
9月6日	土	1,298	582	<ul style="list-style-type: none"> ・緑井サテライト開設準備 ・山谷防災担当大臣が被災地域を視察
9月7日	日	1,607	523	<ul style="list-style-type: none"> ・緑井サテライト開所 ・大林サテライト閉所 ・西村副大臣(厚生労働省)が被災地域を視察 ・広島市と広島県が復旧計画に関する住民説明会
9月8日	月	835	307	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐北区の駐車場変更(元可部高校跡地⇒寺山公園) ・第3回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)
9月9日	火	647	244	<ul style="list-style-type: none"> ・政府が非常災害現地対策本部を現地連絡調整室に縮小
9月10日	水	770	178	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市が被害家屋4,540軒と発表 ・安佐南区ニーズ把握会議(梅林・八木・緑井地区社協他)
9月11日	木	589	349	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 ・安佐南区ニーズ把握調査実施(梅林地区) ・広島市が「避難対策等検証部会」を設置
9月12日	金	714	331	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐南区ニーズ把握調査実施(八木小学校) ・広島市が義援金第1次分の申請受付開始
9月13日	土	801	332	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 ・ボランティア受入の延べ人数が3万人を突破
9月14日	日	922	444	
9月15日	月・祝	543	271	<ul style="list-style-type: none"> ・市民局長に状況説明 ・松井市長視察(可部東・緑井)
9月16日	火	564	215	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北) ・第6回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 ・翌日のボランティア受け入れ人数をフェイスブックに掲載開始
9月17日	水	644	253	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回NPO・NGO支援連絡会議(34団体参加) ・厚労省政務官視察(八木サテライト)

9月18日	木	526	270	・安佐北区・本部情報共有の協議 ・安佐南区・本部情報共有の協議
9月19日	金	410	228	・高速道路無料措置、12月23日まで延長決定
9月20日	土	671	221	・第5回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)
9月21日	日	745	222	・佐東出張所で河川課とニーズすりあわせ協議
9月22日	月	454	195	・第6回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)
9月23日	火	436	214	・台風のため、9月24日、25日のボランティア活動中止決定
9月24日	水	—	—	・緑井墓苑の作業中止指示。 ・土のう袋撤去のボランティア調整について、河川課と協議
9月25日	木	—	—	・第7回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北)
9月26日	金	267	211	
9月27日	土	481	133	・第8回三者会議開催(本部・安佐南・安佐北) ・ボランティア受入の延べ人数が4万人を突破
9月28日	日	404	152	・第7回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催
9月29日	月	198	147	・第9回三者会議開催(本部・安佐南区・安佐北区) ・フェイスブックで、復興連携センターへの移行周知
9月30日	火	230	175	・市長表敬訪問(市社協会長・安佐南区・安佐北区社協会長・NPOセンター長) ・第3回NPO・NGO支援連絡会議
10月1日	水	—	—	・広島市復興連携本部・安佐南区・安佐北区復興連携センターへの移行
10月2日	木	—	—	・復興連携センター土日対応準備
10月3日	金	—	10	・復興連携センター土日対応準備
10月4日	土	199	75	・復興連携センターでのボランティア受付開始
10月5日	日	—	—	・台風の影響により活動中止
10月6日	月	—	2	・緑井墓苑での活動支援の検討 ・ボランティア活動保険の受け入れを柔軟に対応検討 ・NPO・NGO支援連絡会議(生活支援活動団体)
10月7日	火	—	—	・移行後第1回三者会議開催(本部・安佐南区・安佐北区)
10月8日	水	—	—	
10月9日	木	—	2	・復興連携センター土日対応準備
10月10日	金	—	4	・復興連携センター土日対応準備
10月11日	土	173	89	・復興連携センターでのボランティア受付
10月12日	日	159	50	・復興連携センターでのボランティア受付 ・台風対策のため緑井サテライト養生を行う
10月13日	月	—	—	・台風のため午前中で活動中止
10月14日	火	—	—	・台風による緑井サテライト被害(テント柱曲がる) ・三者会議中止(上記対応のため)
10月15日	水	—	2	
10月16日	木	—	—	・復興連携センター土日対応準備
10月17日	金	—	—	・復興連携センター土日対応準備
10月18日	土	117	19	・復興連携センターでのボランティア受付
10月19日	日	114	13	・復興連携センターでのボランティア受付
10月20日	月	—	5	
10月21日	火	—	—	・移行後第2回三者会議開催(本部・安佐南区・安佐北区)

10月22日	水	—	—	
10月23日	木	—	—	・「安佐北区災害復旧活動のふりかえりと今後のビジョンを語り合う会」開催 ・復興連携センター土日対応準備
10月24日	金	—	4	・復興連携センター土日対応準備
10月25日	土	83	57	・復興連携センターでのボランティア受付
10月26日	日	61	49	・復興連携センターでのボランティア受付
10月27日	月	—	—	
10月28日	火	—	—	・第8回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催
10月29日	水	—	—	
10月30日	木	—	—	・復興連携センター土日対応準備
10月31日	金	—	—	・復興連携センター土日対応準備 ・第4回NPO・NGO支援連絡会議 ・8.20 広島復興支援市民会議(第1回) ・安佐北区復興連携センターフェイスブック立ち上げ
		29,154	13,812	計42,966名

広島市災害ボランティア活動連絡調整会議



§ 1 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議とは？

広島市災害ボランティア活動連絡調整会議は、大規模災害時におけるボランティア活動に関する課題の検討などを行い、災害時における災害ボランティア活動の環境整備を図る組織です。

この会議は、広島市、広島市社会福祉協議会、日本赤十字社広島県支部、ひろしまNPOセンター等の団体で構成し、連携して災害ボランティア活動を支援します。

[広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体一覧（内部リンク）](#)

1. 平常時の活動について

年1回程度、構成団体による会議を開催し、災害ボランティアに関することについて、情報交換を行うほか、[区災害ボランティアセンター（§ 2 参照）](#)の開設・運営のシミュレーションの実施、広島市総合防災訓練への参加をしています。

2. 広島市内で大規模な災害が発生したとき

広島市災害ボランティア活動連絡調整会議は会議を開催し、[広島市災害ボランティア本部や各区の災害ボランティアセンター（§ 2 参照）](#)を必要と判断した場合、これらの開設を決定します。

広島市災害ボランティア本部や区災害ボランティアセンターの運営については、広島市社会福祉協議会や各区社会福祉協議会が中心となり、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体スタッフやその他のボランティアで行います。

また、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体の中には、各団体独自の支援活動を行う団体もあります。

3. 広島市外（広島県外）で大規模な災害が発生し、被災地が市外（県外）ボランティアを必要とするような状況となったとき

広島市災害ボランティア活動連絡調整会議は会議を開催し、[広島市被災者支援ボランティア本部（§ 5 参照）](#)を必要と判断した場合、これらの開設を決定します。

広島市被災者支援ボランティア本部の運営については、広島市社会福祉協議会や各区社会福祉協議会が中心となり、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体スタッフやボランティアで行います。

また、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体の中には、各団体独自の支援活動を行う団体もあります。



§ 2 広島市災害ボランティア本部、区災害ボランティアセンターとは？

広島市内で大規模な災害が発生したときに広島市災害ボランティア活動連絡調整会議の協議により設置します。

被災した地域がどのようなボランティアや支援を必要としているのか、情報収集を行い、ニーズの把握・整理を行うとともに、支援活動を希望する個人や団体の受け入れ調整やマッチング活動を行います。

○広島市災害ボランティア本部は、広島市災害対策本部と連携し、情報のとりまとめを行ったり、災害ボランティアの募集などを行います。

○区災害ボランティアセンターは、災害ボランティアの受付や区範囲でのボランティアの活動調整を行います。

(災害の規模によっては、区災害ボランティアセンターを設置せず、広島市災害ボランティア本部で一括して行う場合もあります。)



§ 3 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議のこれまでの主な活動

(会議の開催や総合防災訓練への参加は省略しています。)

平成 9 年 12 月	広島市災害ボランティア活動連絡調整会議設置
平成 11 年 6 月	平成 11 年 6. 29 豪雨災害に対し、広島市災害ボランティア本部を設置
平成 13 年 3 月	平成 13 年芸予地震に対し広島市災害ボランティア本部を設置
平成 16 年 10 月	新潟県中越地震、平成 16 年台風 23 号に対し、 広島市被災者支援ボランティア本部（§ 5 参照） を設置
平成 23 年 3 月	東日本大震災被災者の支援を目的に、広島市被災者支援ボランティア本部を設置



§ 4 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体

広島市や広島市社会福祉協議会など 22 団体で構成されています。

	団体名	平常時の災害ボランティアに関する活動	広島で災害が起こった場合の活動予定
1	社会福祉法人 広島市社会福祉協議会 http://shakyo-hiroshima.jp/	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア研修 ・区災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市災害ボランティア本部、区災害ボランティアセンターの運営 ・広島市災害ボランティア本部などへの物資の提供（テント、スコップなど）
2	広島市民生委員児童委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市災害時要援護者避難支援制度への協力 ・地区民協の行う災害時に備える取組への助成金の交付 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者の相談に応じ、助言その他の援助 ・支援情報の提供 ・広島市災害ボランティア本部からの情報の被災者への周知協力
3	日本赤十字社広島県支部 http://www.hiroshima.jrc.or.jp/	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字奉仕団が各地域において自主的に防災訓練、炊き出し訓練等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・救援救護活動 ・赤十字奉仕団による防災ボランティア ・状況により献血推進活動、義援金募集など ・赤十字奉仕団へ広島市災害ボランティア本部への派遣、ボランティアの要請
4	公益財団法人 広島YMCA http://www.hymca.jp/	<ul style="list-style-type: none"> ・全国のYMCA及びYMCA同盟のネットワークによる情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島YMCA内で災害復興支援室を設置しており、災害の際には支援室を中心として支援活動を検討 ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供（テント、ブルーシートなど）、運営資金の支援、ボランティア等での復興支援活動

5	広島市地域女性団体連絡協議会 http://www.cyberbb.com/hjd/index.html	・地域での自主防災学習会の実施	・炊き出し、救護、その他協力
6	日本ボーイスカウト広島県連盟 http://www.scout-hiroshima.org/	特になし	・所属する団の災害状況の把握 ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供（マーキーテント、炊事具一式）
7	一般社団法人 ガールスカウト広島県連盟 http://girlscoutshiroshima.web.fc2.com/toiawase.html	特になし	・災害時に何が協力出来るか、何を求められるかにより検討 ・募金などの協力
8	一般社団法人 広島青年会議所 http://www.hiroshima-jc.jp/	・災害が起こったときの対応、協力ができるよう日本青年会議所に災害関係の委員会を設置しており、非常時に全国の青年会議所に連絡が届く体制を整備 ・日本青年会議所が開発したJCAID(有事の際の緊急物資がパッケージされたもの)を多くの会員が購入し、万が一の備えとしている	・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供
9	広島商工会議所 http://www.hiroshimacci.or.jp/	特になし	特になし
10	連合広島 広島地域協議会 http://www.rengo-hiroshima.jp/	・加盟構成組織・単組で学習会を開催	特になし
11	NPO法人ひろしまNPOセンター http://npoc.or.jp/	・全国のNPO支援組織とのネットワーク(情報)	・広島県内外のNPO、支援組織との連絡調整 ・広島市災害ボラン

		共有など) ・災害時対応マニュアル、ボランティア・寄付募集の仕組み作り	ティア本部へのスタッフ派遣、運営資金の支援、情報・ネットワークの共有
12	SeRV広島 http://www.kuresc.net/volinfo/npo/view.php?id=22	・広島市総合防災訓練への参加	・災害時救援物資仕分けの協力 ・土砂災害時の土砂かき出し
13	NPO法人コミュニティリーダーひゅーる ぽん http://www.hullpong.jp/HPWEBTOP.html	・ボランティアコーディネーター養成講座を年1回実施(これまで何回か災害時のコーディネーターをテーマにした講座を実施)	・被災者(主に災害弱者)の一時的な受け入れと情報支援 ・ボランティアの受け入れと調整 ・コーディネーターの派遣 ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供(食器などの野外活動用具の貸出など)
14	NPO法人Ant-Hiroshima http://www.ant-hiroshima.org/	・減災のための学習会・他団体とのネットワークづくり	・NPOやボランティア市民とともに支援本部を立ち上げる ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供、運営資金の支援、海外のNGO等への支援依頼
15	カトリック広島司教区 平和の使徒推進本部 http://cpap.hiroshima-diocese.net/	特になし	・情報提供や呼び掛け
16	広島県災害復興支援士業連絡会	・広島県内の士業(弁護士、司法書士などの専門家団体)での情報交換	・各種相談業務 ・広島市災害ボランティア本部への物資の提供、運営資金の支援
17	生活協同組合ひろしま http://www.hiroshima.coop/	・大災害発生時の減災について学ぶ「コープぼうさい塾」の開催 ・災害訓練への協力	・上部団体である広島県生活協同組合連合会が広島県と「災害時における物資調達等に関する協定」を締結 ・生活協同組合ひろしまは、広島市、呉市、尾道市、三次市、

			広島市安佐南区、高陽地区、東広島市と同様の協定を締結 ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供（食料品、日用雑貨）、情報・ネットワークの共有
18	公益社団法人 青年海外協力協会中国支部 http://www.joca.or.jp/chugoku/	・東日本大震災の被災地・被災者支援の活動から、災害時に対応できる仕組みを整備している	・青年海外協力協会内で災害復興支援室を開設し、青年海外協力隊OB会等と連携し活動を検討、実施していく予定 ・協力隊OB会と連携しての人材の派遣 ・広島市災害ボランティア本部への物資の提供（近隣の協力隊OB会へ要請）、情報の共有
19	NPO法人もりメイト倶楽部Hiroshima http://www.morimate-ch.com/1/index.html	特になし	・森林ボランティア団体など関連団体への応援要請 ・暖を取るためや食事に活用する薪や炭の確保、移動式エコストーブによる暖房、炊き出し ・復旧に伴う樹木の伐採、整理 ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供（ノコギリなどの貸し出し、チェーンソー・刈払機などによる道の整備、エコストーブなど）
20	NPO法人ひろしま自然学校 http://moricafe.sakura.ne.jp/	・救急法講習会、野外生活体験活動の実施	・全国の自然学校と連携した災害支援活動など ・広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣、物資の提供（軍手、スコップ、シュラフなどのアウトドア物品）

21	公益財団法人 広島市文化財団 http://www.cf.city.hiroshima.jp/	・公民館において防災等をテーマにした主催事業やパネル展を実施	・災害応急対策マニュアルに従い、職員体制を配備
22	広島市 (健康福祉局、市民局、消防局)	(市民局) ・広島市災害ボランティア活動連絡調整会議事務局 (消防局) ・広島市総合防災訓練の実施	(健康福祉局) ・避難所への物資の給与・配分 ・義援金・救援物資に関すること ・広島市地域防災計画に基づいた広島市災害対策本部の事務(局内の要員調整、情報伝達など) (市民局) ・広島市災害ボランティア活動連絡調整会議事務局、広島市災害ボランティア本部へのスタッフ派遣 ・市災害対策本部からの情報収集、広島市災害ボランティア本部への伝達 ・広島市地域防災計画に基づいた広島市災害対策本部の事務(局内の要員調整、情報伝達等) (消防局) ・広島市地域防災計画に基づいた広島市災害対策本部の事務

広島市災害ボランティア本部

広島市復興連携本部への転換について

8月20日に発生した大雨による土砂災害で被害を受けた方々の住民生活を支援するため、広島市災害ボランティア本部を設置し、安佐北区及び安佐南区に災害ボランティアセンターを立ち上げ、住環境の復旧を中心とした災害ボランティア活動を行ってきました。

この災害ボランティア活動には、県内外から4万人を超える大勢のボランティアの方々の協力により、土砂だしを中心に行われ、未だ重機等の復旧作業等が行われている危険な地域や立ち入り制限のある地域を除くと、土砂だしの活動は一定の見通しがついたところ です。

広島市災害ボランティア本部では被害の大きかった地域の自治会や民生委員、地区社会福祉協議会等の皆様に現状を確認し、大人数で対応する土砂だし等の作業系の要望が収束を迎えていること、今後は家屋内の清掃や自立生活の復興へ向けた個別対応が求められていることがわかりました。

現在も県内外より多くのボランティア活動の希望をお寄せいただいておりますが、地域の復旧状況の変化と、生活支援のように専門職等と連携した、きめ細かな対応策が求められていることから、10月1日を持ちまして、これまで設置してきた広島市災害ボランティア本部を広島市復興連携本部へ転換し、併せて安佐北区及び安佐南区の災害ボランティアセンターを復興連携センターへ転換することになりました。

今後は、県内の各方面の協力と連携をいただき、そのニーズが災害ボランティア活動者に支援を求めるものなのか、地元住民主体、地元支援団体主体で復興支援活動として行うものなのかを見極め、住民の皆様が被災生活から日常生活に移行するための生活支援に向けて住民の皆様と地域の復興へ向けた取り組みを継続していきたくと思います。

これまでボランティア活動に携わっていただいた多くの皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の転換を迎えた新たな復興連携本部並びに復興連携センターへの益々のご協力をお願いいたします。

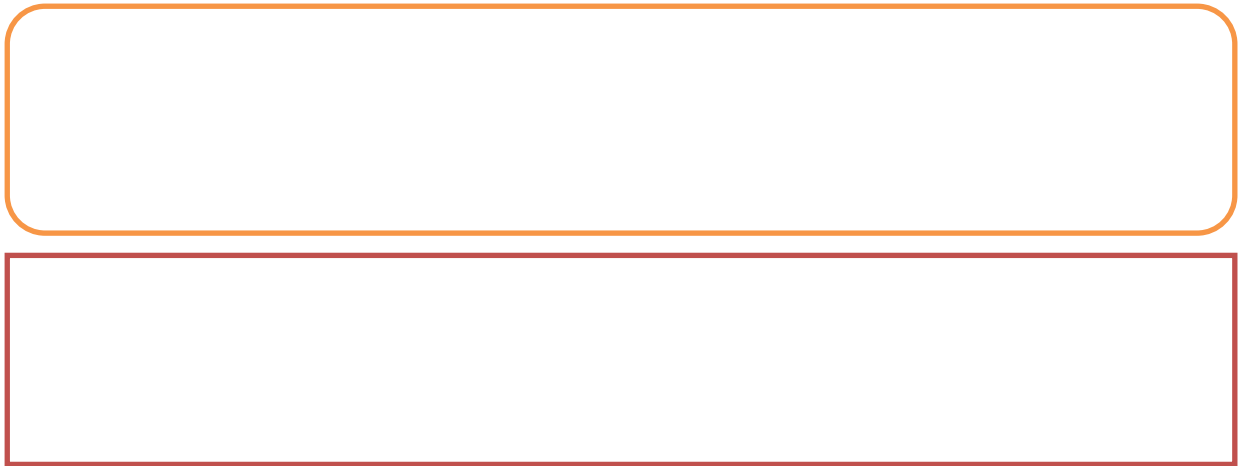
平成 26 年 9 月 29 日

広島市災害ボランティア本部

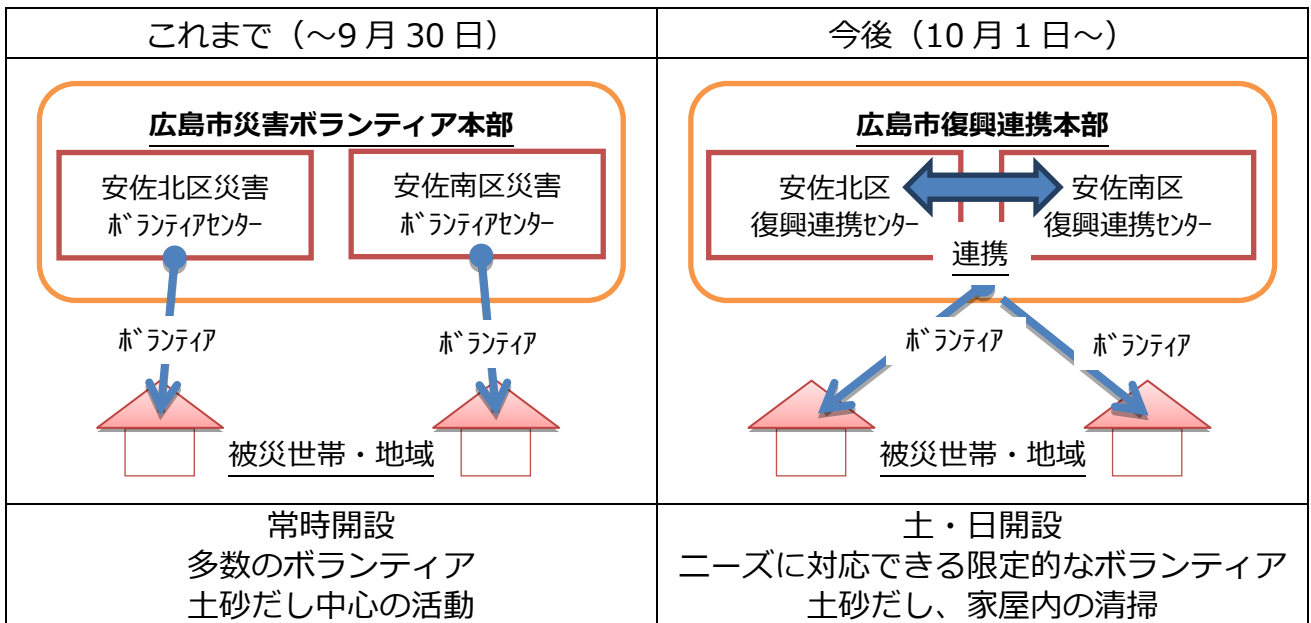
お問い合わせ先：080-2931-1542

080-2931-1642

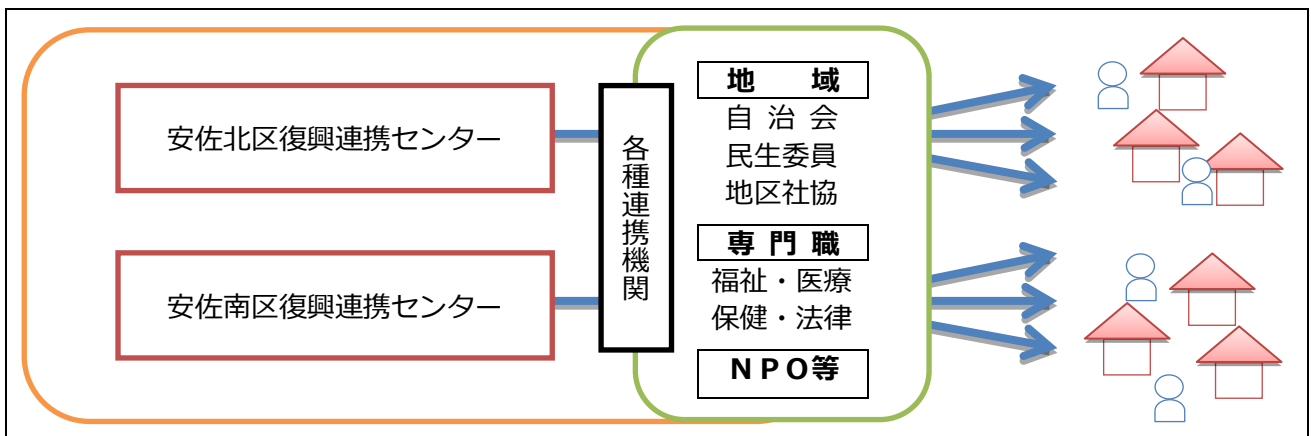
■ 転換後の内容と機能



■ 災害ボランティア活動支援のイメージ図



■ 地域の支え合い支援のイメージ図



(2014.09.29 作成)